

## 《報道資料》

### パテック フィリップ ジュネーブ

2009年3月

## 機械式タイムピースの新たな品質規準、パテック フィリップ・シール

2009年春から、パテック フィリップのすべての機械式ムーブメントには、同社のみのエクスクルーシブな品質ラベル、《パテック フィリップ・シール》が刻印される。これは、パテック フィリップにとって新たな時代の始まりを意味する出来事である。しかしこの記念すべき出来事は、1839年の創業以来、ジュネーブのマニファクチュール、パテック フィリップが一貫して追求してきた品質と独立の哲学を完璧に体現するものでもある。この新たな品質ラベルは、創業以来、パテック フィリップを他社製品と峻別してきた本質的な特徴を、初めて明確に定義したものといえよう。その特徴とは、外部の、あるいは公式の品質規準をはるかに凌駕する、パテック フィリップの最高の品質に他ならない。真の情熱とは、内部からのみ理解することができるのである。

### パテック フィリップ・シール：論理的な到達点

一世紀以上の長きにわたり、《ジュネーブ・シール》の規定は、《精緻な仕上がり》に関する最小限守られるべき規準として、パテック フィリップの機械式ムーブメントの開発と製造プロセスの中に位置づけられてきた。しかし創業以来培われてきた革新の伝統に則り、パテック フィリップ・タイムピースのパフォーマンスと信頼性が絶え間なく独自の向上を続けてきたことはいうまでもない。

パテック フィリップは《完全なるマニファクチュール》である。すなわちムーブメント製造の高度な《垂直的統合》はもちろん、ケースおよびほとんどすべての《外装部品》をも自社で製造している。その結果、パテック フィリップ独自の品質規準は、ムーブメントのみではなく、完成したタイムピース全体に適用されるのである。

過去数年来、品質ラベルとは、完成した時計全体を対象とすべきであるという事実が、ますます明確になってきた。ここから、パテック フィリップ・タイムピースの製造、精度、長期的メンテナンスに関わるすべての技術、ノウハウ、特徴を統合的に評価することのできる、新たな品質ラベルが創設されるに至ったのである。

### パテック フィリップ・シール：タイムピース全体を評価する品質ラベル

《パテック フィリップ・シール》は、ジュネーブのマニファクチュール、パテック フィリップが新たに創設する、エクスクルーシブな品質ラベルである。パテック フィリップ・シールは、当社のすべての機械式タイムピースに、その複雑さのレベルに係わりなく、適用される。

またパテック フィリップ・シールの規定は、ムーブメントのみではなく、タイムピース全体に適用される。外装部品（ケース、文字盤、指針、プッシュボタン、バネ棒など）、完成したタイムピースの美的外観、機能も評価対象となる。

パテック フィリップ・タイムピースは、先ずもって時間計測のための計器である。ゆえにパテック フィリップ・シールが計時精度を評価対象とするのは当然の帰結といえよう。パテック フィリップ・タイムピースは、日差-3~+2秒（ムーブメント径が20mm未満のものは日差-5~+4秒）を許容限度としている。重要なことは、パテック フィリップでは計時精度の最終検査が完成したタイムピースに対して行なわれるということである（一般的な外部機関の計時精度検査は、ケーシング前のムーブメントに対してのみ行なわれる）。

### **パテック フィリップ・シール：革新の伝統を体現**

パテック フィリップは、卓越性の追求においていかなる妥協も認めない。パテック フィリップは、ユーザーに対し、より高い価値と長期にわたる信頼性を保証するため、製品の品質向上を絶え間なく追求してきた。パテック フィリップ・シールはダイナミックな品質ラベルである。その規定は、タイムピースの機能を向上させるすべての技術革新を体現し、今日、将来にわたる技術的進歩を内包するものである。

### **パテック フィリップ・シール：家族企業による個人的保証**

パテック フィリップ・シールは、パテック フィリップのフィリップ・スターン現社長、および後継者であるティエリー・スターン副社長が与える個人的保証である。1932年以来、パテック フィリップのオーナーである家系に生まれたフィリップ・スターン現社長とティエリー・スターン副社長は、それぞれ第3世代、第4世代にあたる。マニュファクチュール・パテック フィリップと共に成長し、そのDNAを継承し、この家族代々の遺産を世代から世代へと継承して行くという強固な意志の下、情熱をもってその使命を全うしている。それは、ユーザーがパテック フィリップ・タイムピースを世代から世代へと継承して行くのと同様である。

### **パテック フィリップ・シール：グローバルな品質ラベル**

パテック フィリップ・シールは、創作から納入に至るまで、タイムピースに関する必要なすべての品質規準を定めたものである。また製品寿命の全期間にわたるアフターサービスを含んだ初めての時計に関する品質ラベルでもある。すなわち、パテック フィリップは、1839年の創業以来製作されたすべてのタイムピースのアフターサービスと修復を保証する。

パテック フィリップ・シールはまた、貴金属、合金、ジュエリー・ウォッチの貴石など、タイムピースの製作に用いられるすべての素材の最高品質を保証するものである。ダイヤモンドについては、パテック フィリップは最高の透明度、色彩（ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンド）、カットのもののみを選択している。これらが正統的なセッティング技術によりセッティングされていることはいうまでもない。

美的な外観と並んで、パテック フィリップ・シールの規定中最も重要なもののひとつに、すべての構成部品の絶対的な幾何学精度がある。切削加工、バリ取りやポリッシュ仕上げなどの手仕上げ工程は、機能を保証するため、設計図に定められた寸法、形状を些かも変えてはならない。ケースの縁は軽く丸みを帯びた仕上げとし、セッティングされたダイヤモンドは、ケース形状の複雑さに関わらず、突出した部分があってはならない。外装、ムーブメントを問わず、いかなる美的な仕上げも機能を犠牲とするものであってはならない。

パテック フィリップは、ムーブメントの開発、製造において常に時間計測機能を最優先させる。例えば、

輪列を保持する受けの形状や配置は、美的観点からあらかじめ決定されることはない。受けの目的は、香箱から调速装置まで、摩擦を最小限にとどめつつ、最も効率的なエネルギーの伝達を保証することである。ムーブメント設計におけるチャレンジは、技術的要求に立脚しつつ、最も美的な効果を現出することである。パテック フィリップが追求する高度な時計製作の本質がここにある。それを実現した上で、初めてムーブメント装飾の専門家の登場となるのである。すなわち受けと地板の縁は面取りを施し、ポリッシュ仕上げを行なう。受けの見える面にはコート・ド・ジュネーブ装飾を施し、受けの裏面および地板の全面にペルラージュ装飾を施す。時計の世界で模範とされる、究極の機能性、長期にわたる信頼性、計時精度、そして比類のない美しさを兼ね備えたパテック フィリップのムーブメントは、このようにして誕生するのである。

パテック フィリップ・タイムピースのケースもまた、機能的な役割を念頭に置いて設計されている。貴重なムーブメントを保護し、日常の使用に耐え、各種の機能を容易に操作できなければならない。

品質追求の絶え間ない努力は、ケースなどの外装部品にも注がれている。ケースは、伝統的な冷間鍛造の方法によって、棒状の金属素材から製作される。数トンの圧力を加えつつ、少しずつ異なる形の型で何度もプレスし、最終的な形状に近づけて行く。型（ダイスとパンチ）は、超鋼を素材とし、ミクロン単位の精度で自社製作される。パテック フィリップはこのための専門工房を有している。細心の配慮を込めた手仕上げ、多数回にわたる幾何学精度の測定など、ケース製造の後続工程には、すべて同じ配慮が注がれる。最後のポリッシュ仕上げ工程は、ケースの形状、素材によって、シンプルなステンレススチール・ケースの場合でも2時間、複雑なプラチナ・ケースの場合は6時間に及ぶ集中的な手作業を必要とする。完璧な機能と美しさを兼ね備えたパテック フィリップ・タイムピースのケースの実現は、このような努力によってのみ可能となるのである。

### 製造工程に完璧に統合された検査プロセス

パテック フィリップ・シールは、ムーブメントと外装を構成する部品の品質に関して厳格な規準を設けている。この規準を満たすため、各工程毎に仕様書への準拠を認定するためのきわめて厳しい検査手順が定められている。例えば、構成部品の製造に約1,200工程を必要とする自動巻ムーブメントについて、パテック フィリップでは、合計数百時間の工程内検査（作業ポストにおける自主検査、統計的検査、最終検査）を実施している。組立て工程においても、ブレイクアッセンブリされた部品は厳重に検査される。組立てを終えたムーブメントは、さらに検査を受ける。これは、ムーブメントの複雑さによっては約30日間に及ぶ。ケーシングを終えたタイムピースには、さらに約20日間に及ぶ検査（計時精度、手首に着用した状態のシミュレーション、機能検査）が待っている。完成したタイムピースが、パテック フィリップの追求する高度な時計製作の本質に準拠していることを保証するためである。防水検査は、乾式および浸水式の両方が実施される。後者では3～12気圧の水圧下で気密性が検査される。防水検査の最後には、結露試験が行なわれる。これらすべての検査に合格し、パテック フィリップ独自の計時精度規準をクリアしたタイムピースは、目視検査により外観の完璧さを確認し、真空包装を施されて発送を待つことになる。

パテック フィリップ・シールはまた、タイムピースの概念そのものにも関わりを持っている。ニューモデルの開発においては、時間計測のための計器という本質的な機能を忘れることがあってはならない。表示の完璧な視認性を実現することは重要な要素である。さらにもうひとつの重要な点がある。今日、ますます大型の腕時計が流行しているが、パテック フィリップは、繊細なケース、最も薄型で小型のムーブメントを技術的特徴とする、時を超越したエレガンスを常に推進してきた。短期的には市場の嗜好と異なるように見えるかも知

れないが、170年の歴史を誇るパテック フィリップは、一時の流行を超えたスタイル感覚と、伝統的時計製作技術の最高のエッセンスこそが、永続的な価値を創出できていることを知っているのである。

#### パテック フィリップ・シール：監督機関

どんなに優れた品質ラベルも、その規定を遵守させるための監督機関なくしては、絵に描いた餅に過ぎない。パテック フィリップ・シール規定の起草と同時に、規定の準拠を監督する機関が設置されたのはこのためである。この監督機関は、互いに独立した立法機関と執行機関から構成される。

パテック フィリップ・シール委員会がパテック フィリップ・シールの立法機関である。その役割は、パテック フィリップ・シール規定を成文化し、製品の品質向上に資する技術革新に即応して規定を改訂し、戦略的な決定を練り上げることである。パテック フィリップ・シール委員会は、技術部会とデザイン部会の2つからなる。2部会は、常に緊密な連携を取りつつ活動を行う。

パテック フィリップ・シール規定の遵守を保証するためには、すべての工程における規定の適用を絶え間なく監督する必要がある。また新たな状況に即応して採用された新しい規定の統合を図る必要がある。これらの任務を行う執行機関が監督委員会である。監督委員会のメンバーはパテック フィリップ・シール委員会のメンバーとは独立している。監督委員会は毎日、マニユファクチュール・パテック フィリップにおいて活動し、パテック フィリップ・シール委員会に対して報告を行なう義務を負う。

上記2つの機関の上部に立つ最高機関がフィリップ・スターン社長とティエリー・スターン副社長であり、この両氏がパテック フィリップ・シールを個人的に保証する。

#### パテック フィリップ・シール：独立の宣言

今日、多くの著名ブランドが、ますます大規模なグループの傘下に統合されるに至っている。しかしパテック フィリップは、その独立性をあくまで堅持する。パテック フィリップは、外部からの圧力なしに独立して将来を決定することのできる最後の《完全なマニユファクチュール》のひとつである。この長期的なビジョンこそがブランドの成功と製品の独自性に不可欠な要素なのである。

パテック フィリップ・シールは、正にこの伝統に立脚するものに他ならない。この卓越した品質ラベルは、現在、そして将来の世代のために、ジュネーブのマニユファクチュール、パテック フィリップが自己記録を更新して行く継続的努力を体現するものであり、絶え間なく新たなチャレンジに挑み続ける手段を提供するものである。

パテック フィリップのすべての機械式ムーブメントに刻印されてきたジュネーブ・シールは、2009年春から新しいパテック フィリップ・シールによって漸次、置き換えられて行く。

2009年春から、新たな広報キャンペーンが開始され、パテック フィリップ・シールの導入を支援する。フィリップ・スターン社長とティエリー・スターン副社長のポートレート写真は、イギリスの著名な写真家ジョン・スワネルが撮影し、パテック フィリップ・シールがいかによりパテック フィリップの価値と哲学を体現しているかをアピールする。

### パテック フィリップとジュネーブ・シール（1886～2008年）の長い絆

十九世紀、ジュネーブで製作される美しい高品質の時計は、スイス国境を越えて新大陸や中東、アジアの王国にまでその名を知られるようになった。しかしこの成功の裏で、一部の商人が、卓越の代名詞となったジュネーブの名を借りて、低品質の時計を高値で販売しようと画策し始めた。彼らの不正行為は、ジュネーブ時計製作のかけがえのない名声、およびジュネーブ時計師組合の将来に壊滅的な打撃を与える危険を秘めていた。そこで1886年、ジュネーブ共和国は、原産地および品質保証の手段としてジュネーブの名を乱用することを禁じる法律を制定するに至ったのである。ジュネーブ製造の高品質のムーブメントが満たすべき条件を厳密に定義した《ジュネーブ・シール》の施行規則が定められた。この施行規則は、技術的規準に加え、ジュネーブ州内で組立てられたムーブメントのみがジュネーブ・シールを取得できることを規定している。パテック フィリップの懐中時計がジュネーブ・シールを刻印された最初のタイムピースとなったことは当然の帰結であった。時と共にパテック フィリップはこの栄誉ある規準のアンバサダーの役割を演じるに至った。こうしてパテック フィリップの現行コレクション中、すべての機械式ムーブメントにジュネーブ・シールが刻印されたのである。2009年の春から、パテック フィリップはジュネーブ・シールからパテック フィリップ・シールに移行する。100年以上の長きにわたり、パテック フィリップは、ジュネーブ・シールが全世界で時計製作の最も栄誉ある認定規準のひとつとして認められることに貢献してきたといえよう。

#### 《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

丸山和泉

電 話：03-5209-8018（直通）

F A X：03-3256-7558

maruyama@ppjapan.com

#### 《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

パテック フィリップ ホームページ：<http://www.patek.com>（英語）